

久御山町男女共同参画住民意識調査結果

平成 30 年 11 月
久御山町総務部総務課

8月に実施しました「男女共同参画社会に関する住民意識調査」ではご協力いただきありがとうございました。

調査結果は、「久御山町第2次男女共同参画プラン ～女（ひと）と男（ひと）ともに進めよう 未来（あす）のくみやまづくり～」（愛称 ”久御山町レインボウプラン”）の見直しにあたり、今後の具体的な取り組みの資料として活用させていただきます。

調査対象・回答者数

〔目的〕 久御山町民の男女共同参画施策に対する意識等を把握するとともに、第2次男女共同参画プランの中間年における進捗状況の検証と今後の本町における男女共同参画施策の基礎資料にするため実施。

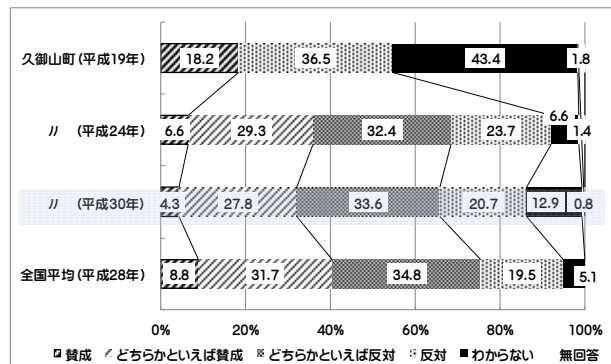
〔調査期間〕 平成30年8月20日から9月7日まで

〔調査方法〕 20歳以上の住民1,300人へ送付（郵送回答）

〔回答者数〕 396人（回答率 30.5%）

調査結果の概要

1 「男は仕事、女は家庭」という考え方について



「男は仕事、女は家庭」という考えに、賛成（「どちらかといえば賛成」も含む）と答えた人は減少傾向にあります。また、全国平均と比較すると、久御山町はその割合も低い結果となっています。

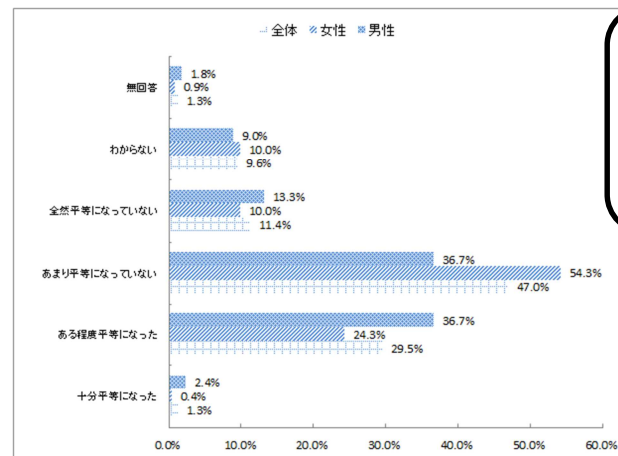


※ 「どちらかといえば同感する」と「どちらかといえば同感しない」は平成24年調査から選択肢に入れていません。

2 固定的性別役割分担意識

「食事のしたく」、「食事の後片付け」、「そうじ」、「洗濯」、「ゴミ出し」、「食料品や日用品の買い物」は、従来と同様、女性が担当する傾向が強い結果となりました。

3 社会の中で男女平等の達成度について



「あまり平等になっていない」、「全然平等になっていない」と否定的に見ている意見が全体で58.3%ありました。また、男女別では女性の方が割合が高い結果となりました。



4 男女の社会上での地位などについて

「様々な地域活動」においては、「それぞれの持ち分を分担し協力しあっている」との回答が最も多くありましたが、「職場」や「政治や行政の政策・方針決定の場」、「社会通念・慣習やしきたり」などでは、従来と変わらず、「どちらかといえば男性が優遇されている」との回答が最も多くあり、平等性については、依然、課題として残る結果となりました。

5 女性の社会での活躍について

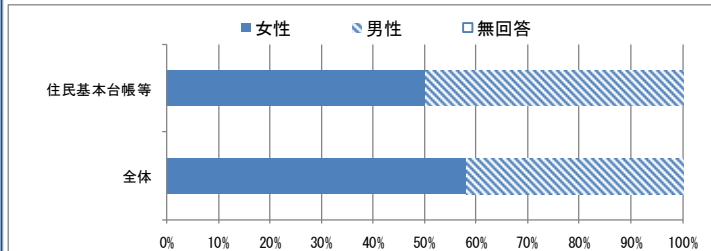
政策等の場で女性の意見を反映させるためには、「女性の意見を政策に反映することの大切さを広く啓発すること」が必要とする回答がもっとも多い結果となりました。

また職場や社会全体として女性リーダーが「増えている」、「少しは増えている」との回答も全体の58.1%ありました。

調査結果（個表）

問1 あなたの性別は。

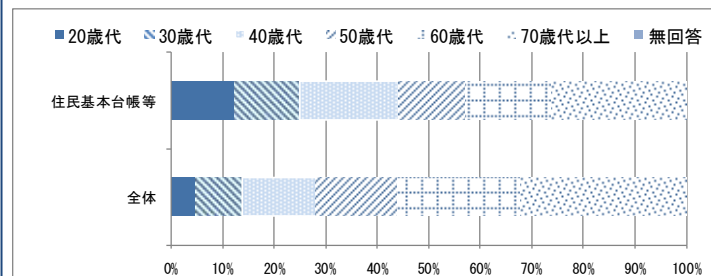
	標本数	女性	男性	無回答
全体	396	230	166	0
	100.0%	58.1%	41.9%	0.0%
住民基本台帳等	16,126	8,120	8,006	
	100.0%	50.4%	49.6%	



回答者の性別は、「女性」58.1%、「男性」41.9%と女性の割合が高くなりました。調査時（平成30年9月）における本町人口の性別比（「女性」50.4%、「男性」49.6%）と比較すると、「女性」は7.7ポイント高くなっていることから、本調査の全体集計では「女性」の意見がやや強く反映されている傾向となっています。

問2 あなたの年齢は。

	標本数	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	無回答
全体	396	19	36	56	63	95	127	0
	100.0%	4.8%	9.1%	14.1%	15.9%	24.0%	32.1%	0.0%
住民基本台帳等	13,240	1,623	1,688	2,544	1,703	2,205	3,477	
	25.0%	12.3%	12.7%	19.2%	12.9%	16.7%	26.3%	



年齢については、調査時における本町人口の年齢比と比較すると、「20～29歳」は7.5ポイント、「30～39歳」は3.6ポイント、「40～49歳」は5.1ポイント低く、逆に「50～59歳」は3.0ポイント、「60～69歳」は7.3ポイント、「70歳以上」は5.8ポイント高くなっており、本調査の全体集計では40歳代以上の意見が強く反映される傾向となりました。

問3 現在のあなたの職業は、次のどれにあてはまりますか。

	標本数	農林業	商業、工業、サービスなどの自営業主	家、弁護士（家、弁護士など）	自由業（作家、芸術家、自由業）	家族従事者	会社・組織などの正社員・正職員	パートタイム	派遣・契約社員	アルバイト	内職・在宅就業	専業主婦・専業主夫	学生	失業中の方など	その他	無回答
全体	396	18	27	6	8	79	66	11	15	3	42	4	99	17	1	
	100.0%	4.5%	6.8%	1.5%	2.0%	19.9%	16.7%	2.8%	3.8%	0.8%	10.6%	1.0%	25.0%	4.3%	0.3%	
平成23年度	518	15	31	3	12	126	75	25	16	5	97	14	71	20	8	
	100.0%	2.9%	6.0%	0.6%	2.3%	24.3%	14.5%	4.8%	3.1%	1.0%	18.7%	2.7%	13.7%	3.9%	1.5%	

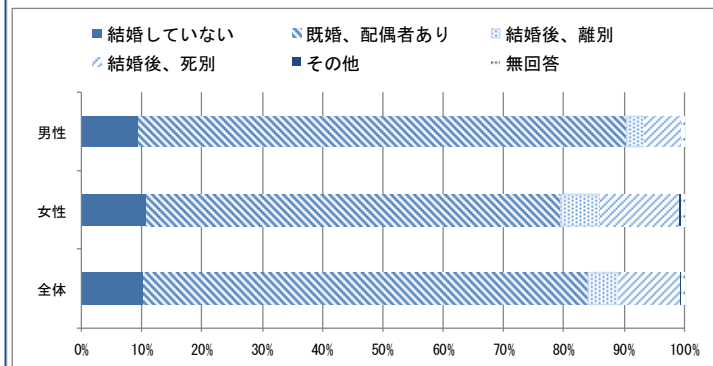
【性・年齢別の職業】

	標本数	農林業	商業、工業、サービスなどの自営業主	家、弁護士（家、弁護士など）	自由業（作家、芸術家、自由業）	家族従事者	会社・組織などの正社員・正職員	パートタイム	派遣・契約社員	アルバイト	内職・在宅就業	専業主婦・専業主夫	学生	失業中の方など	その他	無回答
女性20歳代	13	0	0	0	1	5	1	0	1	1	1	1	1	2	0	0
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	38.5%	7.7%	0.0%	7.7%	7.7%	7.7%	7.7%	7.7%	15.4%	0.0%	0.0%
女性30歳代	25	1	1	1	0	5	12	0	0	0	3	0	0	0	2	0
	100.0%	4.0%	4.0%	4.0%	0.0%	20.0%	48.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.0%	0.0%
女性40歳代	31	1	2	0	1	13	7	2	0	0	5	0	0	0	0	0
	100.0%	3.2%	6.5%	0.0%	3.2%	41.9%	22.6%	6.5%	0.0%	0.0%	16.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性50歳代	37	1	3	0	5	17	3	0	0	0	5	0	1	1	0	0
	100.0%	2.7%	7.7%	0.0%	13.5%	45.9%	8.1%	0.0%	0.0%	0.0%	13.5%	0.0%	2.7%	2.7%	0.0%	0.0%
女性60歳代	53	4	0	0	0	3	18	0	3	0	15	0	8	2	0	0
	100.0%	7.5%	0.0%	0.0%	0.0%	5.7%	34.0%	0.0%	5.7%	0.0%	28.3%	0.0%	15.1%	3.8%	0.0%	0.0%
女性70歳代以上	71	1	0	0	5	0	6	0	1	2	13	0	38	5	0	0
	100.0%	1.4%	0.0%	0.0%	7.0%	0.0%	8.5%	0.0%	1.4%	2.8%	18.3%	0.0%	53.5%	7.0%	0.0%	0.0%
男性20歳代	6	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	2	1	0	0	0
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
男性30歳代	11	0	1	0	0	7	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0
	100.0%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	63.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%
男性40歳代	25	0	2	2	0	16	1	1	0	0	0	0	3	0	0	0
	100.0%	0.0%	8.0%	8.0%	0.0%	64.0%	4.0%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.0%	0.0%	0.0%	0.0%
男性50歳代	26	2	3	0	0	18	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0
	100.0%	7.7%	11.5%	0.0%	0.0%	69.2%	0.0%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%
男性60歳代	42	5	9	0	0	6	2	4	5	0	0	0	10	1	0	0
	100.0%	11.9%	21.4%	0.0%	0.0%	14.3%	4.8%	9.5%	11.9%	0.0%	0.0%	0.0%	23.8%	2.4%	0.0%	0.0%
男性70歳代以上	56	3	8	0	1	0	2	0	3	0	0	0	34	4	1	0
	100.0%	5.4%	14.3%	0.0%	1.8%	0.0%	3.6%	0.0%	5.4%	0.0%	0.0%	0.0%	60.7%	7.1%	1.8%	0.0%

回答者の性・年齢別に職業をみると、男性は30歳代～50歳代ではすべての年齢で「正社員・正職員」の割合が高くなり、女性は「パートタイム」の割合が高くなりました。また「専業主婦・専業主夫」の割合は、前回と比較し8.1ポイント減少し、特に「女性30歳代」で大きく減少しました。

問4 あなたは結婚(事実婚も含む)していますか。

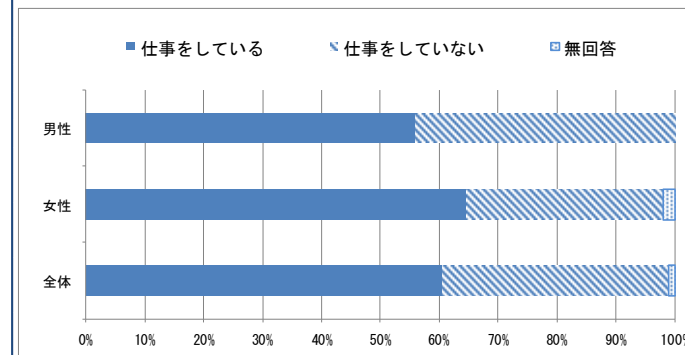
	標本数	い結 な婚 いて	偶既 婚者 あり 配	離結 別婚 後、	死結 別婚 後、	そ の 他	無 回 答
全体	396	41 10.4%	292 73.7%	20 5.1%	40 10.1%	1 0.3%	2 0.5%
女性	230	25 10.9%	158 68.7%	15 6.5%	30 13.0%	1 0.4%	1 0.4%
男性	166	16 9.6%	134 80.7%	5 3.0%	10 6.0%	0 0.0%	1 0.6%
平成23年度	518	91 17.6%	378 73.0%	21 4.1%	21 4.1%	0 0.0%	7 1.4%



配偶者の有無は、「あり」が73.7%、「未婚」が10.4%、「離別した」5.1%、「死別した」10.1%でした。前回調査と比較し、「未婚」の割合が7.2ポイント減少しています。

問4-② あなたの配偶者は、仕事をしていますか。

	標本数	て仕 い事 るを し	て仕 い事 なを し	無 回 答
全体	292	177 60.6%	112 38.4%	3 1.0%
女性	158	102 64.6%	53 33.5%	3 1.9%
男性	134	75 56.0%	59 44.0%	0 0.0%
平成23年度	378	254 67.2%	123 32.5%	1 0.3%



配偶者の就業状況は、「仕事をしている」が、60.6%、「仕事をしていない」が38.4%でした。前回調査と比較し、「仕事をしている」が6.6ポイント減少しています。

問5 現在のあなたのご家族(同居されている方のみ)の構成は、次のどれにあてはまりますか。

	標本数	け自 分 ひ と り だ	を夫 含 婦 む (事 実 婚	代親 と 子 の 2 世	3親 世と 代子 と 孫 の	そ の 他	無 回 答
全体	396	37 9.3%	105 26.5%	188 47.5%	43 10.9%	22 5.6%	1 0.3%
平成23年度	518	21 4.1%	98 18.9%	281 54.2%	89 17.2%	19 3.7%	10 1.9%

家族構成は、「親と子の2世代」が47.5%と最も高く、続いて「夫婦のみ」26.5%、「親と子の3世代」10.9%となりました。前回調査と比較すると、「2世代」、「3世代」の家族構成が減少している一方、「自分ひとりだけ」、「夫婦のみ」が増加しています。

問6 あなたにお子さんはおられますか。				
	標本数	はい	いいえ	無回答
全体	396	317	73	6
	100.0%	80.1%	18.4%	1.5%
平成23年度	518	380	123	15
	100.0%	73.4%	23.7%	2.9%

問6-② あなたの一番下のお子さんは。								
	標本数	6歳未満の未就学児	小学生	中学生	高校生以上の学生	社会人	その他	無回答
全体	317	32	23	5	20	211	18	8
	100.0%	10.1%	7.3%	1.6%	6.3%	66.6%	5.7%	2.5%
平成23年度	380	69	37	17	42	194	19	2
	100.0%	18.2%	9.7%	4.5%	11.1%	51.1%	5.0%	0.5%

一番下の子どもの年齢は、「社会人」が66.6%と最も高く、続いて「6歳未満の未就学児」10.1%、「小学生」7.3%の順となりました。

問7 あなたのお住まいの地域では、様々な地域活動について、男性と女性の協力はどのようにされていますか。									
	標本数	しほあといっしょに協力	それぞれ協力しあっている	参加しているが、協力があつていない	男性が主体となっており、女性があまり参加していない	実質的に女性が主体となっており、男性があまり参加していない	その他	わからない	無回答
全体	396	53	160	17	49	6	109	2	
	100.0%	13.4%	40.4%	4.3%	12.4%	1.5%	27.5%	0.5%	
女性	230	29	86	10	32	3	69	1	
	100.0%	12.6%	37.4%	4.3%	13.9%	1.3%	30.0%	0.4%	
男性	166	24	74	7	17	3	40	1	
	100.0%	14.5%	44.6%	4.2%	10.2%	1.8%	24.1%	0.6%	
平成23年度	518	53	187	33	32	39	163	11	
	100.0%	10.2%	36.1%	6.4%	6.2%	7.5%	31.5%	2.1%	

男性では、「ほとんど対等に協力しあっている」と「それぞれの持ち分を分担し、協力しあっている」の合計が59.1%であるのに対して、女性では50.0%と9.1%低い結果となりました。なお、これらの合計は平成23年度から比較すると、7.5ポイント増加しており、男女の協力に対する意識は上がってきていると言えます。

問8 あなたのご家族では、次の事柄は主にどなたが担当されていますか。								
		標本数	主に自分	同じ分と配偶者が	主に配偶者	その他の家族	該当しない	無回答
食事のしたく	女性	230	178	6	7	33	4	2
		100.0%	77.4%	2.6%	3.0%	14.3%	1.7%	0.9%
	男性	165	20	12	115	14	2	2
		100.0%	12.1%	7.3%	69.7%	8.5%	1.2%	1.2%
食事の後片付け	女性	230	171	15	9	29	4	2
		100.0%	74.3%	6.5%	3.9%	12.6%	1.7%	0.9%
	男性	166	22	30	96	13	3	2
		100.0%	13.3%	18.1%	57.8%	7.8%	1.8%	1.2%
そうじ	女性	230	160	22	12	27	7	2
		100.0%	69.6%	9.6%	5.2%	11.7%	3.0%	0.9%
	男性	166	20	29	93	18	4	2
		100.0%	12.0%	17.5%	56.0%	10.8%	2.4%	1.2%
洗濯	女性	230	170	9	11	32	6	2
		100.0%	73.9%	3.9%	4.8%	13.9%	2.6%	0.9%
	男性	166	24	15	107	14	4	2
		100.0%	14.5%	9.0%	64.5%	8.4%	2.4%	1.2%
ゴミ出し	女性	230	119	22	43	37	7	2
		100.0%	51.7%	9.6%	18.7%	16.1%	3.0%	0.9%
	男性	166	52	28	63	18	2	3
		100.0%	31.3%	16.9%	38.0%	10.8%	1.2%	1.8%
食料品や日用品の買い物	女性	230	146	39	8	30	4	3
		100.0%	63.5%	17.0%	3.5%	13.0%	1.7%	1.3%
	男性	166	24	44	75	16	2	5
		100.0%	14.5%	26.5%	45.2%	9.6%	1.2%	3.0%
家具・家屋などの修理・修繕	女性	230	45	19	89	36	37	4
		100.0%	19.6%	8.3%	38.7%	15.7%	16.1%	1.7%
	男性	166	117	17	7	13	10	2
		100.0%	70.5%	10.2%	4.2%	7.8%	6.0%	1.2%
高額な買い物、財産管理	女性	230	91	59	34	30	12	4
		100.0%	39.6%	25.7%	14.8%	13.0%	5.2%	1.7%
	男性	166	53	50	39	16	6	2
		100.0%	31.9%	30.1%	23.5%	9.6%	3.6%	1.2%
町内会・自治会の活動	女性	230	82	41	35	28	39	5
		100.0%	35.7%	17.8%	15.2%	12.2%	17.0%	2.2%
	男性	166	51	38	32	15	28	2
		100.0%	30.7%	22.9%	19.3%	9.0%	16.9%	1.2%
育児(乳幼児の世話)	女性	230	54	17	1	12	128	18
		100.0%	23.5%	7.4%	0.4%	5.2%	55.7%	7.8%
	男性	166	2	15	33	7	94	15
		100.0%	1.2%	9.0%	19.9%	4.2%	56.6%	9.0%
子供の教育やしつけ	女性	230	53	24	2	17	118	16
		100.0%	23.0%	10.4%	0.9%	7.4%	51.3%	7.0%
	男性	166	4	33	30	6	80	13
		100.0%	2.4%	19.9%	18.1%	3.6%	48.2%	7.8%
高齢者の介護	女性	230	34	12	3	11	148	22
		100.0%	14.8%	5.2%	1.3%	4.8%	64.3%	9.6%
	男性	166	4	10	23	8	110	11
		100.0%	2.4%	6.0%	13.9%	4.8%	66.3%	6.6%

「食事のしたく」「食事の後片付け」「洗濯」「そうじ」「食料品や日用品の買い物」を「主に自分」は、女性は6～7割、男性は1割程度であり、前回調査と同様の傾向となりました。

問9 今後、男性が家事や子育て、介護、地域活動へ積極的に参加をすすめるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

	標本数	男性自身の抵抗感をなくすこと	女性の抵抗感をなくすこと	をよくはかること	夫婦や家族間でのコミュニケーション	すること	年配者や周りの人が、夫婦の役割分担	社会の中で、男性による家事・育児な	り持てるようにすること	労働時間短縮や、休暇制度、多様な働き	ようが家事・育児などに関心を高める	などの技能を高めること	町主催の研修などにより、男性の家事	と男性が家事・育児などを行うための仲	間（ネットワーク）づくりを進めること	男性が相談しやすい窓口を設けること	その他	わからない	無回答									
全体	396	140	28	196	113	111	164	82	52	54	61	11	29	17	100.0%	35.4%	7.1%	49.5%	28.5%	28.0%	41.4%	20.7%	13.1%	13.6%	15.4%	2.8%	7.3%	4.3%
女性	230	81	14	118	73	75	98	51	27	34	39	6	13	8	58.1%	35.2%	6.1%	51.3%	31.7%	32.6%	42.6%	22.2%	11.7%	14.8%	17.0%	2.2%	5.7%	3.5%
男性	166	59	14	78	40	36	66	31	25	20	22	5	16	9	41.9%	35.5%	8.4%	47.0%	24.1%	21.7%	39.8%	18.7%	15.1%	12.0%	13.3%	3.0%	9.6%	5.4%
平成23年度	518	213	23	228	106	156	160	101	35	116	35	14	32	15	100.0%	41.1%	4.4%	44.0%	20.5%	30.1%	30.9%	19.5%	6.8%	22.4%	6.8%	2.7%	6.2%	2.9%

全体では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをはかること」が49.5%と最も高く、続いて「労働時間短縮や休暇制度、多様な働き方の普及を進め、仕事以外の時間をより持てるようにすること」41.4%、「男性自身の抵抗感をなくすこと」35.4%の順となりました。

問10 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどう思いますか。

	標本数	賛成	賛とど成いちえらばか	反とど対いちえらばか	反対	いわから	無回答
全体	396	17	110	133	82	51	3
	100.0%	4.3%	27.8%	33.6%	20.7%	12.9%	0.8%
女性	230	8	49	100	49	22	2
	100.0%	3.5%	21.3%	43.5%	21.3%	9.6%	0.9%
男性	166	9	61	33	33	29	1
	100.0%	5.4%	36.7%	19.9%	19.9%	17.5%	0.6%
平成23年度	518	34	152	123	168	34	7
	100.0%	6.6%	29.3%	23.7%	32.4%	6.6%	1.4%
【性・年齢別の職業】							
女性20歳代	13	0	5	1	5	2	0
	100.0%	0.0%	38.5%	7.7%	38.5%	15.4%	0.0%
女性30歳代	25	1	1	9	12	2	0
	100.0%	4.0%	4.0%	36.0%	48.0%	8.0%	0.0%
女性40歳代	31	2	4	17	6	2	0
	100.0%	6.5%	12.9%	54.8%	19.4%	6.5%	0.0%
女性50歳代	37	1	7	18	6	5	0
	100.0%	2.7%	18.9%	48.6%	16.2%	13.5%	0.0%
女性60歳代	53	1	9	24	13	6	0
	100.0%	1.9%	17.0%	45.3%	24.5%	11.3%	0.0%
女性70歳代以上	71	3	23	31	7	5	2
	100.0%	4.2%	32.4%	43.7%	9.9%	7.0%	2.8%
男性20歳代	6	0	1	2	2	1	0
	100.0%	0.0%	16.7%	33.3%	33.3%	16.7%	0.0%
男性30歳代	11	0	1	1	4	5	0
	100.0%	0.0%	9.1%	9.1%	36.4%	45.5%	0.0%
男性40歳代	25	2	9	3	6	5	0
	100.0%	8.0%	36.0%	12.0%	24.0%	20.0%	0.0%
男性50歳代	26	1	8	7	2	7	1
	100.0%	3.8%	30.8%	26.9%	7.7%	26.9%	3.8%
男性60歳代	42	3	18	5	8	8	0
	100.0%	7.1%	42.9%	11.9%	19.0%	19.0%	0.0%
男性70歳代以上	56	3	24	15	11	3	0
	100.0%	5.4%	42.9%	26.8%	19.6%	5.4%	0.0%

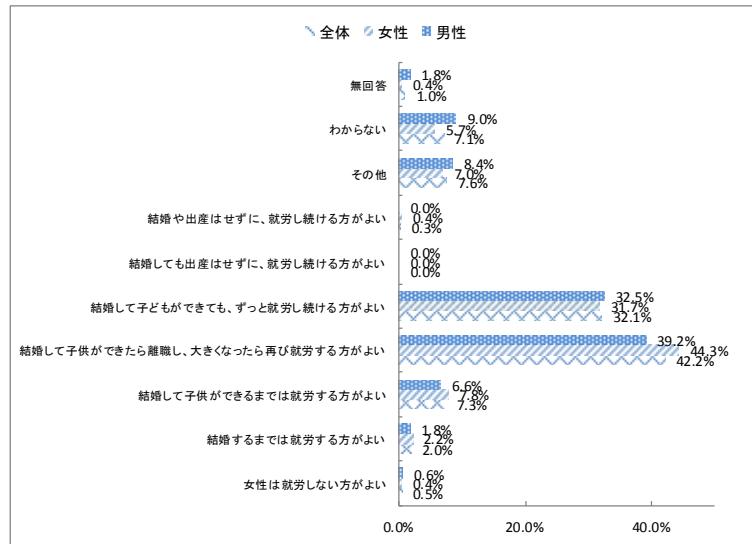
「賛成」「どちらかといえば賛成」は、全体で見ると32.1%と前回と比較し3.8ポイント減少していますが、男女別で見ると、男性は42.1%、女性は24.8%と依然として男性の割合が高くなっています。

性別・年齢別にみると、男性40歳代以降が「賛成」「どちらかといえば賛成」の割合が高くなっていますが、男性20歳代、30歳代は「反対」「どちらかといえば反対」の割合が高くなっており、若い世代の男性は、性別役割分担意識が薄いといえます。

女性は、全体的に「反対」「どちらかといえば反対」の割合が高くなっています。

問11 一般的に、女性の職業と生活設計について、どのように思いますか。

	標本数	女性が就労しない方がよい	結婚するまでは就労する方がよい	結婚して子供ができるまでは就労する方がよい	結婚して子供が大きくなったら再び就労する方がよい	結婚して子どもができて、ずっと就労し続ける方がよい	結婚しても出産はせずに、就労し続ける方がよい	その他	わからない	無回答	
全体	396	2 0.5%	8 2.0%	29 7.3%	167 42.2%	127 32.1%	0 0.0%	1 0.3%	30 7.6%	28 7.1%	4 1.0%
女性	230	1 0.4%	5 2.2%	18 7.8%	102 44.3%	73 31.7%	0 0.0%	1 0.4%	16 7.0%	13 5.7%	1 0.4%
男性	166	1 0.6%	3 1.8%	11 6.6%	65 39.2%	54 32.5%	0 0.0%	0 0.0%	14 8.4%	15 9.0%	3 1.8%
平成23年度	518	13 2.5%	30 5.8%	47 9.1%	231 44.6%	118 22.8%	0 0.0%	1 0.2%	39 7.5%	33 6.4%	6 1.2%



「結婚して子どもができてから離職し、大きくなったら再び就労する方がよい」が全体の4割を超えており、前回から割合は若干低くなっているものの、従来からの日本女性の働き方の特徴を表した結果となりました。
 「結婚して子どもができて、ずっと就労し続ける方がよい」の割合は、平成19年度17.8%、平成23年度22.8%で、今回は32.1%と年々高くなっています。

問12 男女共同参画とは主に誰のためのものとイメージがありますか。

	標本数	男性のためのもの	女性のためのもの	両方のためのもの	わからない	無回答
全体	396	5 1.3%	62 15.7%	282 71.2%	43 10.9%	4 1.0%
女性	230	4 1.7%	37 16.1%	162 70.4%	25 10.9%	2 0.9%
男性	166	1 0.6%	25 15.1%	120 72.3%	18 10.8%	2 1.2%

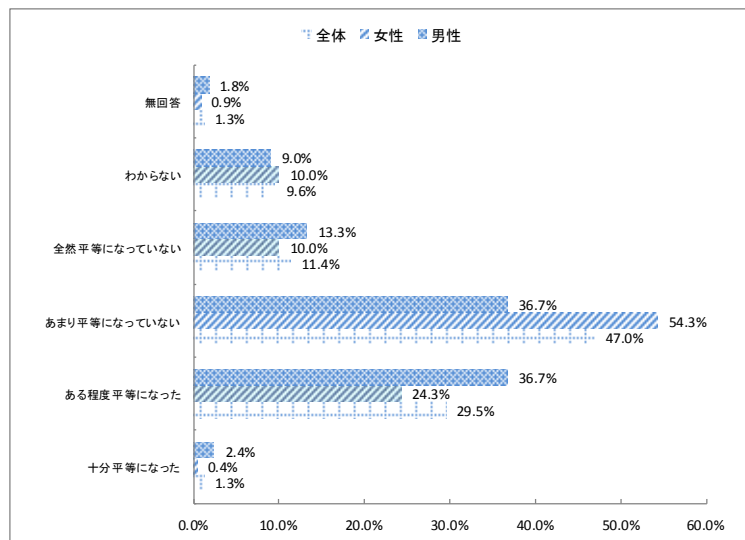
【性・年齢別の職業】

性・年齢	標本数	男性のためのもの	女性のためのもの	両方のためのもの	わからない	無回答
女性20歳代	13	1 7.7%	3 23.1%	5 38.5%	4 30.8%	0 0.0%
女性30歳代	25	0 0.0%	4 16.0%	17 68.0%	4 16.0%	0 0.0%
女性40歳代	31	2 6.5%	3 9.7%	21 67.7%	5 16.1%	0 0.0%
女性50歳代	37	0 0.0%	12 32.4%	23 62.2%	2 5.4%	0 0.0%
女性60歳代	53	0 0.0%	10 18.9%	41 77.4%	1 1.9%	1 1.9%
女性70歳代以上	71	1 1.4%	5 7.0%	55 77.5%	9 12.7%	1 1.4%
男性20歳代	6	0 0.0%	1 16.7%	2 33.3%	3 50.0%	0 0.0%
男性30歳代	11	0 0.0%	2 18.2%	8 72.7%	1 9.1%	0 0.0%
男性40歳代	25	1 4.0%	2 8.0%	18 72.0%	4 16.0%	0 0.0%
男性50歳代	26	0 0.0%	6 23.1%	16 61.5%	3 11.5%	1 3.8%
男性60歳代	42	0 0.0%	6 14.3%	32 76.2%	3 7.1%	1 2.4%
男性70歳代以上	56	0 0.0%	8 14.3%	44 78.6%	4 7.1%	0 0.0%

全体として「両方のためのもの」の回答が7割を超えています。しかし、若年層、特に20歳代では「わからない」の回答が多く、また「女性のためのもの」という回答も15.7%ありました。

問13 全体的に見て、社会の中で男女平等はどの程度達成されていますか。

	標本数	十分平等になった	ある程度平等になった	あまり平等になっていない	全然平等になっていない	わからない	無回答
全体	396	5	117	186	45	38	5
女性	230	1	56	125	23	23	2
男性	166	4	61	61	22	15	3
平成23年度	518	23	207	185	57	40	6
	100.0%	1.3%	29.5%	47.0%	11.4%	9.6%	1.3%
	100.0%	0.4%	24.3%	54.3%	10.0%	10.0%	0.9%
	100.0%	2.4%	36.7%	36.7%	13.3%	9.0%	1.8%
	100.0%	4.4%	40.0%	35.7%	11.0%	7.7%	1.2%



「あまり平等になっていない」「全然平等になっていない」の合計は、男性で50.0%、女性で64.3%と男女間で差がありました。職業別にみると「全然平等になっていない」の割合が高いのは、パート、専業主婦・専業主夫の順となりました。

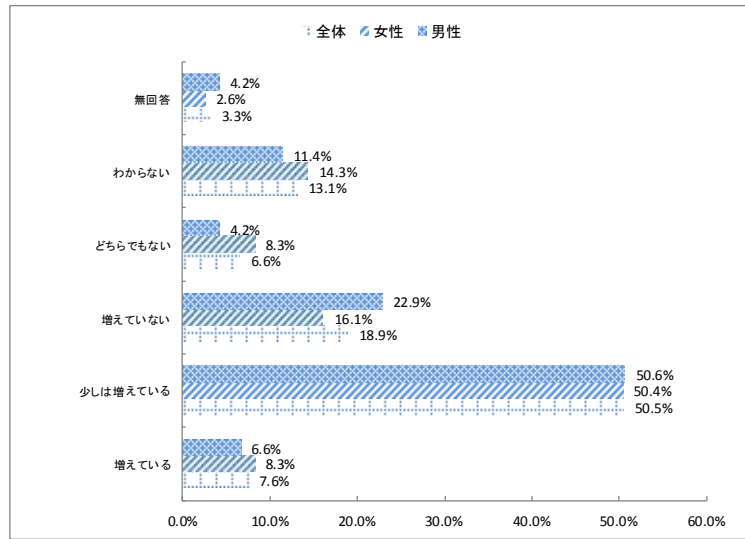
問14 あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

		標本数	男性の方が優遇されている方が多い	どちらかという方が優越している	平等である	どちらかという方が優越している	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
学校教育の場	女性	230	4	45	98	7	0	68	8
	男性	166	4	24	91	7	1	36	3
職場	女性	230	34	117	30	7	2	35	5
	男性	166	18	85	25	13	1	21	3
家庭生活	女性	230	21	105	63	18	3	15	5
	男性	166	14	49	66	13	5	16	3
自治会やPTAなどの地域の場	女性	230	21	71	63	11	2	57	5
	男性	166	6	47	58	13	5	33	4
政治や行政の政策・方針決定の場	女性	230	71	91	24	1	2	37	4
	男性	166	28	71	29	0	1	34	3
法律や制度の上	女性	230	48	63	49	4	2	59	5
	男性	166	14	45	61	6	4	31	5
社会通念・慣習やしきたり等で	女性	230	66	107	12	2	1	35	7
	男性	166	27	86	19	6	1	22	5

全体として前回調査と同じ傾向となりました。依然として「学校教育の場」を除いて、全体的に「どちらかといえば男性の方が優遇されている」傾向が強くなります。

問15 あなたの職場や社会全体として、女性リーダーは増えていると思いますか。

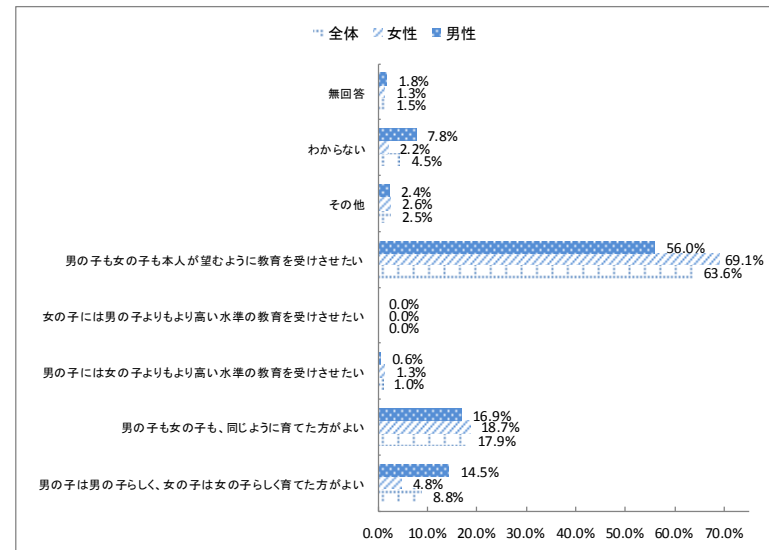
	標本数	増えている	少しは増えている	増えていない	どちらでもない	わからない	無回答
全体	396	30	200	75	26	52	13
	100.0%	7.6%	50.5%	18.9%	6.6%	13.1%	3.3%
女性	230	19	116	37	19	33	6
	100.0%	8.3%	50.4%	16.1%	8.3%	14.3%	2.6%
男性	166	11	84	38	7	19	7
	100.0%	6.6%	50.6%	22.9%	4.2%	11.4%	4.2%



「増えている」「少しは増えている」で全体の58.1%を占めており、女性リーダーは増加している傾向にあるといえます。

問16 あなたは、子供の育て方についてどのようにお考えですか。

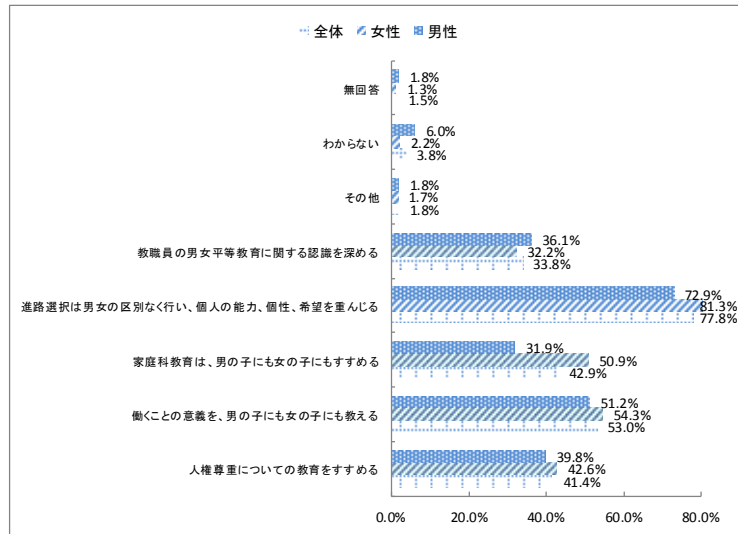
	標本数	男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたい	男の子も女の子も、同じように育てたい	男の子には女の子よりも高い水準の教育を受けさせたい	女の子には男の子よりも高い水準の教育を受けさせたい	望むように教育を受けさせたい	その他	わからない	無回答
全体	396	35	71	4	0	252	10	18	6
	100.0%	8.8%	17.9%	1.0%	0.0%	63.6%	2.5%	4.5%	1.5%
女性	230	11	43	3	0	159	6	5	3
	100.0%	4.8%	18.7%	1.3%	0.0%	69.1%	2.6%	2.2%	1.3%
男性	166	24	28	1	0	93	4	13	3
	100.0%	14.5%	16.9%	0.6%	0.0%	56.0%	2.4%	7.8%	1.8%
平成23年度	518	105	113	12	3	262	7	9	7
	100.0%	20.3%	21.8%	2.3%	0.6%	50.6%	1.4%	1.7%	1.4%



「男の子も女の子も本人が望むように教育を受けさせたい」が男女とも最も高い結果となり、従来求められていた男の子らしさ、女の子らしさといった固定概念は薄くなってきているといえます。

問17 学校教育において男女平等をすすめるため、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答可）

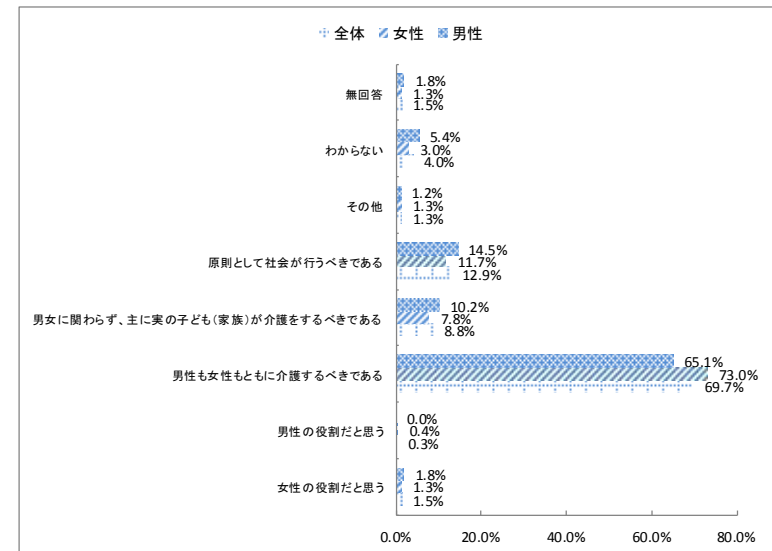
	標本数	を人権尊重についての教育をすすめる	働くことの意味を、男の子にも女の子にも教える	家庭科教育は、男の子にも女の子にもすすめる	性・性別を重んじる、個性・能力を重んじる	進路選択は男女の区別なく、個人の能力、個性、希望を重んじる	教職員の男女平等教育に関する認識を深める	その他	わからない	無回答
全体	396	164	210	170	308	134	7	15	6	
	100.0%	41.4%	53.0%	42.9%	77.8%	33.8%	1.8%	3.8%	1.5%	
女性	230	98	125	117	187	74	4	5	3	
	100.0%	42.6%	54.3%	50.9%	81.3%	32.2%	1.7%	2.2%	1.3%	
男性	166	66	85	53	121	60	3	10	3	
	100.0%	39.8%	51.2%	31.9%	72.9%	36.1%	1.8%	6.0%	1.8%	
平成23年度	518	222	293	255	350	158	12	15	9	
	100.0%	42.9%	56.6%	49.2%	67.6%	30.5%	2.3%	2.9%	1.7%	



「進路選択は男女の区別なく行い、個人の能力、個性、希望を重んじる」が77.8%と最も多く、続いて「働くことの意味を、男の子にも女の子にも教える」、「家庭科教育は、男の子にも女の子にもすすめる」の順となりました。

問18 高齢者などの介護についてあなたはどのように思いますか。

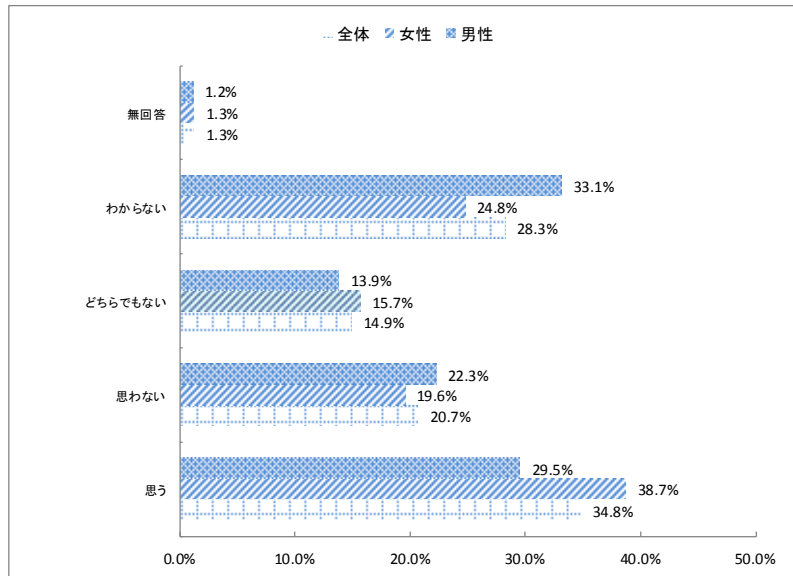
	標本数	女性の役割だと思う	男性の役割だと思う	男性も女性もともに介護すべきである	をの子ども(家族)が介護すべきである	原則として社会が行うべきである	その他	わからない	無回答
全体	396	6	1	276	35	51	5	16	6
	100.0%	1.5%	0.3%	69.7%	8.8%	12.9%	1.3%	4.0%	1.5%
女性	230	3	1	168	18	27	3	7	3
	100.0%	1.3%	0.4%	73.0%	7.8%	11.7%	1.3%	3.0%	1.3%
男性	166	3	0	108	17	24	2	9	3
	100.0%	1.8%	0.0%	65.1%	10.2%	14.5%	1.2%	5.4%	1.8%
平成23年度	518	5	—	266	31	37	146	21	12
	100.0%	1.0%	—	51.4%	6.0%	7.1%	28.2%	4.1%	2.3%



「男性も女性とともに介護すべきである」が全体で見ても、7割近くになっており、前回調査から18.3ポイント増加しました。また、「原則として社会が行うべきである」も前回から大きく増加しました。

問19 あなたの身の回りで、保育や介護サービスは充実してきていると思いますか。

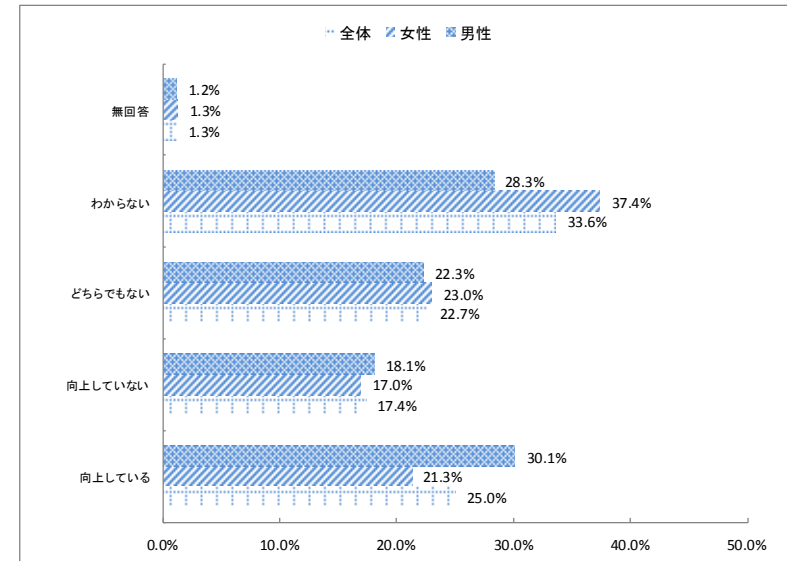
	標本数	思う	思わない	どちらでもない	わからない	無回答
全体	396	138	82	59	112	5
	100.0%	34.8%	20.7%	14.9%	28.3%	1.3%
女性	230	89	45	36	57	3
	100.0%	38.7%	19.6%	15.7%	24.8%	1.3%
男性	166	49	37	23	55	2
	100.0%	29.5%	22.3%	13.9%	33.1%	1.2%



「思う」が全体として最も多く、34.8%の結果となりました。

問20 あなたの身の回りで、女性の雇用環境は向上していると思いますか。

	標本数	向上している	向上していない	どちらでもない	わからない	無回答
全体	396	99	69	90	133	5
	100.0%	25.0%	17.4%	22.7%	33.6%	1.3%
女性	230	49	39	53	86	3
	100.0%	21.3%	17.0%	23.0%	37.4%	1.3%
男性	166	50	30	37	47	2
	100.0%	30.1%	18.1%	22.3%	28.3%	1.2%



男性は「向上している」の回答が最も多く、女性は「わからない」に次いで「どちらでもない」の回答が多くありました。男女間での意識の差があると言えます。

問21 生活の中での「仕事」、「家庭」、「趣味など（地域活動・学習・趣味・付き合い）」についての優先度について、お答えください
 (1) あなたの希望に最も近いものはどれですか。

	標本数	「仕事」を優先した	「家庭」を優先した	「趣味など」を優先した	「仕事」と「家庭」をともに優先したい	「仕事」と「趣味など」をともに優先したい	「家庭」と「趣味など」をともに優先したい	すべてを優先したい	わからない	無回答
全体	396	13	62	16	114	31	93	41	21	5
	100.0%	3.3%	15.7%	4.0%	28.8%	7.8%	23.5%	10.4%	5.3%	1.3%
平成23年度	518	34	120	11	161	7	48	99	30	8
	100.0%	6.6%	23.2%	2.1%	31.1%	1.4%	9.3%	19.1%	5.8%	1.5%

【性・年齢別】

女性20歳代	13	0	1	2	2	2	6	0	0	0
	100.0%	0.0%	7.7%	15.4%	15.4%	15.4%	46.2%	0.0%	0.0%	0.0%
女性30歳代	25	0	8	1	7	0	2	5	2	0
	100.0%	0.0%	32.0%	4.0%	28.0%	0.0%	8.0%	20.0%	8.0%	0.0%
女性40歳代	31	0	8	1	6	6	6	2	2	0
	100.0%	0.0%	25.8%	3.2%	19.4%	19.4%	19.4%	6.5%	6.5%	0.0%
女性50歳代	37	1	8	1	10	3	9	5	0	0
	100.0%	2.7%	21.6%	2.7%	27.0%	8.1%	24.3%	13.5%	0.0%	0.0%
女性60歳代	53	1	10	1	15	4	17	3	1	1
	100.0%	1.9%	18.9%	1.9%	28.3%	7.5%	32.1%	5.7%	1.9%	1.9%
女性70歳代以上	71	2	6	1	21	1	24	8	6	2
	100.0%	2.8%	8.5%	1.4%	29.6%	1.4%	33.8%	11.3%	8.5%	2.8%
男性20歳代	6	1	0	2	0	0	2	0	1	0
	100.0%	16.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	16.7%	0.0%
男性30歳代	11	0	4	1	3	1	2	0	0	0
	100.0%	0.0%	36.4%	9.1%	27.3%	9.1%	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%
男性40歳代	25	0	3	1	11	1	4	3	2	0
	100.0%	0.0%	12.0%	4.0%	44.0%	4.0%	16.0%	12.0%	8.0%	0.0%
男性50歳代	26	1	6	1	6	4	2	3	2	1
	100.0%	3.8%	23.1%	3.8%	23.1%	15.4%	7.7%	11.5%	7.7%	3.8%
男性60歳代	42	5	5	1	11	2	6	8	4	0
	100.0%	11.9%	11.9%	2.4%	26.2%	4.8%	14.3%	19.0%	9.5%	0.0%
男性70歳代以上	56	2	3	3	22	7	13	4	1	1
	100.0%	3.6%	5.4%	5.4%	39.3%	12.5%	23.2%	7.1%	1.8%	1.8%

(2) あなたの現実に最も近いものはどれですか。

	標本数	「仕事」を優先している	「家庭」を優先している	「趣味など」を優先している	「仕事」と「家庭」をともに優先している	「仕事」と「趣味など」をともに優先している	「家庭」と「趣味など」をともに優先している	すべてを優先している	わからない	無回答
全体	396	89	60	16	79	35	60	19	30	8
	100.0%	22.5%	15.2%	4.0%	19.9%	8.8%	15.2%	4.8%	7.6%	2.0%
平成23年度	518	137	154	12	93	21	34	29	22	16
	100.0%	26.4%	29.7%	2.3%	18.0%	4.1%	6.6%	5.6%	4.2%	3.1%

【性・年齢別】

女性20歳代	13	1	2	1	2	1	2	1	3	0
	100.0%	7.7%	15.4%	7.7%	15.4%	7.7%	15.4%	7.7%	23.1%	0.0%
女性30歳代	25	4	8	0	10	0	3	0	0	0
	100.0%	16.0%	32.0%	0.0%	40.0%	0.0%	12.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性40歳代	31	13	7	1	7	1	0	1	1	0
	100.0%	41.9%	22.6%	3.2%	22.6%	3.2%	0.0%	3.2%	3.2%	0.0%
女性50歳代	37	8	9	0	7	5	3	4	0	1
	100.0%	21.6%	24.3%	0.0%	18.9%	13.5%	8.1%	10.8%	0.0%	2.7%
女性60歳代	53	6	9	3	16	2	12	2	2	1
	100.0%	11.3%	17.0%	5.7%	30.2%	3.8%	22.6%	3.8%	3.8%	1.9%
女性70歳代以上	71	6	10	4	13	4	22	5	5	2
	100.0%	8.5%	14.1%	5.6%	18.3%	5.6%	31.0%	7.0%	7.0%	2.8%
男性20歳代	6	2	0	1	0	1	0	0	2	0
	100.0%	33.3%	0.0%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
男性30歳代	11	6	2	0	0	0	2	0	1	0
	100.0%	54.5%	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%	18.2%	0.0%	9.1%	0.0%
男性40歳代	25	12	3	0	5	0	1	0	4	0
	100.0%	48.0%	12.0%	0.0%	20.0%	0.0%	4.0%	0.0%	16.0%	0.0%
男性50歳代	26	7	3	0	4	6	1	1	3	1
	100.0%	26.9%	11.5%	0.0%	15.4%	23.1%	3.8%	3.8%	11.5%	3.8%
男性60歳代	42	14	3	2	8	6	1	4	4	0
	100.0%	33.3%	7.1%	4.8%	19.0%	14.3%	2.4%	9.5%	9.5%	0.0%
男性70歳代以上	56	10	4	4	7	9	13	1	5	3
	100.0%	17.9%	7.1%	7.1%	12.5%	16.1%	23.2%	1.8%	8.9%	5.4%

「希望」をしているものとしては、男性では、「仕事と家庭生活をともに優先したい」が全体的に割合が高くなりました。しかし、「現実」では「仕事を優先している」が最も高くなっています。また、前回と比較し、全体として「家庭」を優先しているは減少していますが、「仕事」と「家庭」や「家庭」と「趣味など」を共に優先する回答が増えています。

問22 あなたの職場においてワークライフバランスの取組は行われていますか。

	標本数	行われている	行われていない	どちらでもない	動めていない	わからない	無回答
全体	396	48	56	65	59	159	9
	100.0%	12.1%	14.1%	16.4%	14.9%	40.2%	2.3%

【性・年齢別】

女性20歳代	13	1	1	4	4	3	0
	100.0%	7.7%	7.7%	30.8%	30.8%	23.1%	0.0%
女性30歳代	25	7	5	4	1	8	0
	100.0%	28.0%	20.0%	16.0%	4.0%	32.0%	0.0%
女性40歳代	31	4	7	8	1	11	0
	100.0%	12.9%	22.6%	25.8%	3.2%	35.5%	0.0%
女性50歳代	37	5	6	9	4	13	0
	100.0%	13.5%	16.2%	24.3%	10.8%	35.1%	0.0%
女性60歳代	53	6	6	3	12	24	2
	100.0%	11.3%	11.3%	5.7%	22.6%	45.3%	3.8%
女性70歳代以上	71	3	1	8	18	37	4
	100.0%	4.2%	1.4%	11.3%	25.4%	52.1%	5.6%
男性20歳代	6	1	0	1	1	3	0
	100.0%	16.7%	0.0%	16.7%	16.7%	50.0%	0.0%
男性30歳代	11	0	5	2	0	4	0
	100.0%	0.0%	45.5%	18.2%	0.0%	36.4%	0.0%
男性40歳代	25	7	7	3	1	7	0
	100.0%	28.0%	28.0%	12.0%	4.0%	28.0%	0.0%
男性50歳代	26	5	4	6	3	7	1
	100.0%	19.2%	15.4%	23.1%	11.5%	26.9%	3.8%
男性60歳代	42	7	7	10	3	15	0
	100.0%	16.7%	16.7%	23.8%	7.1%	35.7%	0.0%
男性70歳代以上	56	2	7	7	11	27	2
	100.0%	3.6%	12.5%	12.5%	19.6%	48.2%	3.6%

「わからない」「どちらでもない」の順となっており、全体として56.6%の結果となりました。ワークライフバランスの取り組みや考えがまだまだ浸透していない結果となりました。

問23 男女が対等に働くために必要なことは、どのようなことだと思いますか。（複数回答可）

	標本数	に夫や家族が、女性が仕事をすること に理解を持つ	男性も家族や子育てを分担する	育児休業制度の普及や保育サービスの充実	育児休業制度の普及や家事を援助する制度の普及	ホームヘルパー制度などの促進	労働時間の短縮と時間外労働の減少	結婚、出産、育児後の再雇用制度の充実	家族が病気のときの看護休業制度の普及	企業の女性の雇用と能力活用、研修・昇進機会の男女均等化の促進	女性の自覚、意欲、能力を高める	その他	特に必要なことはない	無回答
全体	396	223	190	149	91	134	176	116	94	58	11	13	8	
	318.9%	56.3%	48.0%	37.6%	23.0%	33.8%	44.4%	29.3%	23.7%	14.6%	2.8%	3.3%	2.0%	
女性	230	135	124	89	58	78	107	83	55	35	5	5	4	
	58.1%	58.7%	53.9%	38.7%	25.2%	33.9%	46.5%	36.1%	23.9%	15.2%	2.2%	2.2%	1.7%	
男性	166	88	66	60	33	56	69	33	39	23	6	8	4	
	41.9%	53.0%	39.8%	36.1%	19.9%	33.7%	41.6%	19.9%	23.5%	13.9%	3.6%	4.8%	2.4%	
平成23年度	518	232	270	170	59	103	192	119	103	58	10	16	7	
	258.5%	44.8%	52.1%	32.8%	11.4%	19.9%	37.1%	23.0%	19.9%	11.2%	1.9%	3.1%	1.4%	

全体として、「夫や家族が、女性が仕事をすることに理解をもつ」「男性も家事や子育てを分担すること」の順に高く、次いで「結婚、出産、育児後の再雇用制度の充実」となりました。制度の充実よりも、個人の意識に関することが必要とされている結果となりました。

問24 あなたは、配偶者や親しい異性(恋人)からの暴力を受けた経験や見聞きしたことがありますか。

	標本数	直接自分が暴力を受けたことがある	身近に暴力を受けた(受けている)当事者がいる	身近に当事者はいないが、暴力のうわさは耳にしたことがある	テレビや新聞などで問題になっていることは知っている	見聞きしたことはない	暴力をふるったことがある	その他	わからない	無回答
全体	396	25 6.3%	11 2.8%	39 9.8%	231 58.3%	39 9.8%	6 1.5%	9 2.3%	26 6.6%	10 2.5%
平成23年度	518	23 4.4%	39 7.5%	37 7.1%	304 58.7%	59 11.4%	10 1.9%	4 0.8%	23 4.4%	19 3.7%

【性・年齢別】

女性20歳代	13 100.0%	2 15.4%	1 7.7%	0 0.0%	7 53.8%	1 7.7%	0 0.0%	1 7.7%	1 7.7%	0 0.0%
女性30歳代	25 100.0%	2 8.0%	3 12.0%	3 12.0%	15 60.0%	1 4.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.0%
女性40歳代	31 100.0%	2 6.5%	1 3.2%	7 22.6%	16 51.6%	3 9.7%	0 0.0%	1 3.2%	1 3.2%	0 0.0%
女性50歳代	37 100.0%	5 13.5%	3 8.1%	3 8.1%	20 54.1%	3 8.1%	0 0.0%	1 2.7%	2 5.4%	0 0.0%
女性60歳代	53 100.0%	1 1.9%	0 0.0%	6 11.3%	37 69.8%	5 9.4%	0 0.0%	0 0.0%	2 3.8%	2 3.8%
女性70歳代以上	71 100.0%	8 11.3%	0 0.0%	5 7.0%	38 53.5%	5 7.0%	0 0.0%	3 4.2%	9 12.7%	3 4.2%
男性20歳代	6 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	3 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	0 0.0%
男性30歳代	11 100.0%	0 0.0%	1 9.1%	1 9.1%	9 81.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
男性40歳代	25 100.0%	1 4.0%	2 8.0%	2 8.0%	10 40.0%	7 28.0%	0 0.0%	1 4.0%	2 8.0%	0 0.0%
男性50歳代	26 100.0%	1 3.8%	0 0.0%	1 3.8%	11 42.3%	6 23.1%	2 7.7%	0 0.0%	4 15.4%	1 3.8%
男性60歳代	42 100.0%	2 4.8%	0 0.0%	4 9.5%	26 61.9%	6 14.3%	3 7.1%	1 2.4%	0 0.0%	0 0.0%
男性70歳代以上	56 100.0%	1 1.8%	0 0.0%	6 10.7%	39 69.6%	2 3.6%	1 1.8%	1 1.8%	3 5.4%	3 5.4%

問24-② 暴力を受けた後どうしましたか。

	標本数	直接相手に抗議した	家族や身近な人、友人に相談した	町や府などの公的な相談機関に相談した	警察などに訴えた	仕方がないと思い、何もしなかった	相手のことが怖くて何もできなかつた	世間体や今後の不利益を考えると何もできなかつた	自分ひとりで考え、解決しようとした	どこに相談すればいいのかわからなかつた	その他	無回答
全体	25 100.0%	8 32.0%	5 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 16.0%	3 12.0%	3 12.0%	0 0.0%	1 4.0%	1 4.0%	0 0.0%
平成23年度	38 100.0%	12 31.6%	9 23.7%	2 5.3%	1 2.6%	3 7.9%	5 13.2%	1 2.6%	3 7.9%	1 2.6%	1 2.6%	0 0.0%

【性・年齢別】

女性20歳代	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
女性30歳代	2 100.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
女性40歳代	2 100.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
女性50歳代	5 100.0%	2 40.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%
女性60歳代	1 100.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
女性70歳代以上	8 100.0%	2 25.0%	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%
男性40歳代	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
男性50歳代	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
男性60歳代	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
男性70歳代以上	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

どの年代でも、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」の割合が最も高くなり、前回と同傾向の結果となりました。また、暴力を受けた後の対処を「暴力を行った相手に抗議した」が、最も多い結果となりましたが、一方で「仕方がないと思い、何もしなかった」「世間体や今後の不利益を考えると何もできなかつた」「どこに相談すればいいのかわからなかつた」の割合が、平成23年度から増加していることから、DV防止に対する啓発や相談機関の存在の効果的な周知がより必要とされるといえます。

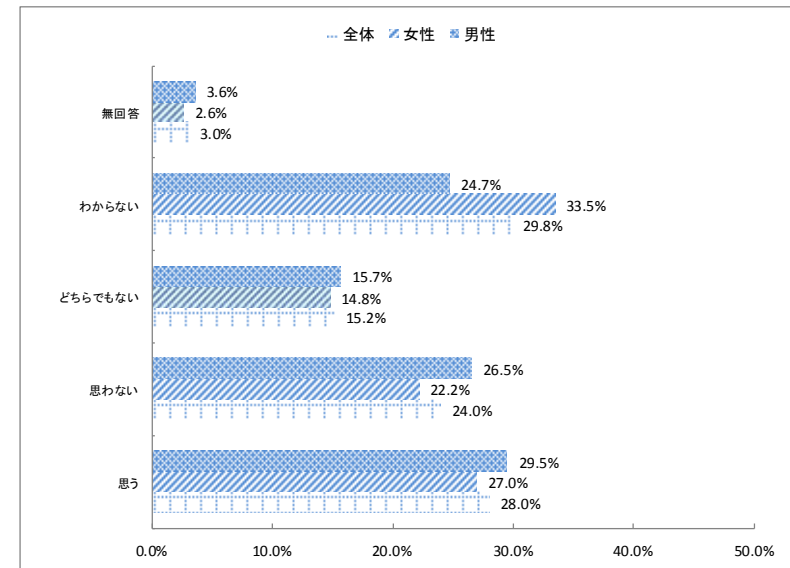
問25 DV（配偶者などからの暴力）を防ぐためには何が必要だと思いますか。（複数回答可）

	標本数	法律の罰則を強化する	相談できるところを増やす	住民に対する啓発や情報提供を行う	加害者に対する啓発を行う	被害を受けた場合に避難できる場所（シェルター）を確保する	男性も女性も、経済的に自立する	子どもの時から暴力拒否の教育を進める	その他	わからない	無回答
全体	396	161 40.7%	208 52.5%	59 14.9%	58 14.6%	161 40.7%	99 25.0%	171 43.2%	9 2.3%	19 4.8%	14 3.5%
女性	230	95 41.3%	136 59.1%	34 14.8%	37 16.1%	112 48.7%	64 27.8%	97 42.2%	3 1.3%	10 4.3%	8 3.5%
男性	166	66 39.8%	72 43.4%	25 15.1%	21 12.7%	49 29.5%	35 21.1%	74 44.6%	6 3.6%	9 5.4%	6 3.6%
平成23年度	518	202 39.0%	318 61.4%	93 18.0%	98 18.9%	208 40.2%	117 22.6%	206 39.8%	12 2.3%	22 4.2%	17 3.3%

前回調査と同様で「相談できるところを増やす」が最も多い結果となりました。続いて「子どもの時から暴力否定の教育を進める」「法律の罰則を強化する」「シェルターを確保する」の順となりました。

問26 あなたの身の回りで、ハラスメントやDVに対する意識や認識は広がっていると思いますか。

	標本数	思う	思わない	どちらでもない	わからない	無回答
全体	396	111 28.0%	95 24.0%	60 15.2%	118 29.8%	12 3.0%
女性	230	62 27.0%	51 22.2%	34 14.8%	77 33.5%	6 2.6%
男性	166	49 29.5%	44 26.5%	26 15.7%	41 24.7%	6 3.6%



全体では「わからない」が29.8%で最も多く、続いて「思う」が28.0%となりました。まだまだハラスメントやDV防止の啓発や教育が必要と言えます。

問29 町の政策に女性の意見を反映するためにどのようなことが必要だと思いますか。
(複数回答可)

	標本数	女性の意見を政策に反映することの大切さを広く啓発する	女性を対象とした各種講座を充実する	女性の町議会議員を増やす	自治会、PTAなどの地域組織で、女性の「長」や役員を増やす	審議会などの女性委員を増やす	気軽な意見提案の方法の周知・活用を図る(エコーポスト・エコーライオンなど)	女性が住民懇談会などの場でもっと発言する	町の女性職員の能力の活用を図る	その他	特別な取り組みは必要ない	わからない	無回答
全体	396	129	62	112	73	99	107	70	107	7	22	54	8
	100.0%	32.6%	15.7%	28.3%	18.4%	25.0%	27.0%	17.7%	27.0%	1.8%	5.6%	13.6%	2.0%
女性	230	79	39	62	35	53	68	42	56	5	11	33	6
	58.1%	34.3%	17.0%	27.0%	15.2%	23.0%	29.6%	18.3%	24.3%	2.2%	4.8%	14.3%	2.6%
男性	166	50	23	50	38	46	39	28	51	2	11	21	2
	41.9%	30.1%	13.9%	30.1%	22.9%	27.7%	23.5%	16.9%	30.7%	1.2%	6.6%	12.7%	1.2%
平成23年度	518	134	87	-	71	134	157	51	108	12	23	111	23
	175.9%	25.9%	16.8%	-	13.7%	25.9%	30.3%	9.8%	20.8%	2.3%	4.4%	21.4%	4.4%

全体では、「女性の意見を政策に反映することの大切さを広く啓発する」が32.6%と最も多く、続いて「女性の町議会議員を増やす」の順となりました。また、「町の女性職員の能力の活用を図る」や「審議会などの女性委員を増やす」が多いことから、広く女性の登用を行うことや、女性の能力の伸長のための施策が求められていることがわかります。

問30 男女共同参画社会づくりをさらに推進していくために、今後、町はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(あてはまるものを3つまで回答可)

	標本数	見直しを行う	男女平等を旨とした制度や施策の制定や	女性を政策決定の場に積極的に登用する	啓発し、徹底を図る	職場における男女の均等な取扱について	育や職業訓練を充実する	女性の就労の機会を増やしたり、職業教育や職業訓練を充実する	の介護施設・サービスを充実する	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の学習を充実する	の男女の平等と相互の理解や協力について	る	男女共同参画に関する情報提供や交流の場を整備する	等と相互の理解や協力についてPRする	広報紙やパンフレットなどで、男女の平等や相互の理解や協力についてPRする	に女性に対するあらゆる暴力の根絶・防止に向けた取り組みを強化する	女性に対するあらゆる暴力の根絶・防止に向けた取り組みを強化する	男女がともに子育てに関わるための取り組みや施策を充実する	その他	特になし	わからない	無回答
全体	396	100	99	73	104	185	56	37	64	47	144	6	13	27	10							
	100.0%	25.3%	25.0%	18.4%	26.3%	46.7%	14.1%	9.3%	16.2%	11.9%	36.4%	1.5%	3.3%	6.8%	2.5%							
女性	230	59	43	34	70	124	29	19	36	32	95	1	7	14	7							
	58.1%	25.7%	18.7%	14.8%	30.4%	53.9%	12.6%	8.3%	15.7%	13.9%	41.3%	0.4%	3.0%	6.1%	3.0%							
男性	166	41	56	39	34	61	27	18	28	15	49	5	6	13	3							
	41.9%	24.7%	33.7%	23.5%	20.5%	36.7%	16.3%	10.8%	16.9%	9.0%	29.5%	3.0%	3.6%	7.8%	1.8%							
平成23年度	518	105	121	95	139	230	71	40	54	43	159	55	23	42	23							
	100.0%	20.3%	23.4%	18.3%	26.8%	44.4%	13.7%	7.7%	10.4%	8.3%	30.7%	10.6%	4.4%	8.1%	4.4%							

「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設・サービスを充実する」が前回調査に引き続き、最も多い結果となりました。続いて、「男女がともに子育てに関わるための取り組みや施策を充実する」、「女性の就労の機会を増やしたり、職業教育や職業訓練を充実する」の順となり、前回と同様の結果となりました。